

「幕末維新时期人口史料」データベースの構築

川口 洋 上原邦彦 日置慎治
帝塚山大学経営情報学部

本稿では、持続的人口成長開始期における人口・親族組織の地域特性を復原するために「幕末維新时期人口史料」データベースを構築して、奥会津地方の「戸籍」に登録されている配偶者の出身地について検討した。「幕末維新时期」データベースは、個人情報テーブル、世帯情報テーブル、史料書誌情報テーブルから構成されており、岩代国大沼郡・会津郡における延べ30ヵ村、4,100人、725世帯が登録されている。検討の結果、明治時代初期の奥会津地方における配偶者の出身地は、東は磐城国標葉郡、西は山城国京、南は相模国愛甲郡・大住郡、北は陸前国岩井郡や陸中国閉井郡におよんでいた。広域にわたる入婚圏は、奥会津地方における労働需要の実態を示唆している。

Database system for analyzing the Japanese civil registers in the mid 19th century

Hiroshi Kawaguchi Kunihiko Uehara Shinnji Hioki
Faculty of Business Administration
Tezukayama University

We have constructed a database system for analyzing the Japanese civil registers which is called *Koseki*. The database is composed of the individual table, the household table and the document bibliography table. The URL of this system is <http://kawaguchi.tezukayama-u.ac.jp>. We have stored up approximately 4 thousand persons in 30 villages in *Aizu* County and *Ohnuma* County, *Iwashiro* Province. With this database system, we have investigated the birthplaces of the spouses. We find many spouses who came from all over east Japan in the mid 19th Century. They suggest the labor market conditions in this region.

1. はじめに

19世紀前期に始まった持続的人口成長は、わが国における伝統社会から近代社会への移行を端的に示す指標の一つとみられる。筆者は、持続的人口成長がどのような地域社会の状況下に始まったかという研究課題に接近を図り、わが国における多産多死社会から少産少死社会への移行を説明する人口転換理論と移動革命論を再構築するために、「江戸時代における人口分析システム(DANJURO)」の開発を進めている。

近代移行期における人口再生産構造や親族組織を復元するための基礎的史料として、次の3点が分析されてきた。①「宗門改帳(しゅうもんあらためちょう)」、②寺院「過去帳」、③明治初期に作成された「戸籍」。

既開発のDANJURO ver. 3.0は、①の古文書画像をデータベースに蓄積して人口分析を行う「宗門改帳」分析システム、②をもとに死亡指標を計算する「過去帳」分析システムなどから構成されている。本システムは、インターネットを通じて研究者間で古文書史料と人口分析の方法を共有する研究基盤に成長を遂げた[1], [2], [3], [4], [5]。

50年以上の長期間にわたって人口規模が数百人の集落単位に作成された①の分析にもとづく従来の歴史人口学の研究方法では、研究対象集落の人口学的特色がどの地域を代表する事例であるのか不明であった。単年度であっても、登録されている人口規模の比較的大きな①や③を整理すると、人口成長が本格化した幕末維新时期における人口・家族構造の地域特性を抽出できる可能性がある。

そこで、幕末維新期の単年度に数十カ村にわたって保存されている①と③を蓄積、分析する情報システムを開発して DANJURO ver. 3.0 に加え、ver. 4.0 に発展させるプロジェクトを企画した。本プロジェクトでは、ア)「幕末維新期人口史料」データベース、イ)古文書史料から人口学的指標を算出する「幕末維新期人口史料」分析プログラム、ウ)検索利用マニュアルから構成される「幕末維新期人口史料」分析システムを構築して、研究者間で共有する研究基盤の整備を目指している。本稿では、この第1段階として試作したア)の概要と検索事例について報告する。

2. 明治初期「戸籍」の記録内容

岩代国会津郡と大沼郡を含む若松縣は、明治元年（1868）年10月28日に制定された戸籍仕法に基づいて編成された京都府「戸籍簿」を雛形として、明治3（1870）年に「戸籍」を作成した。すなわち、若松縣では、明治3年に「宗門改人別家別帳」から「戸籍」に改正され、「戸籍」の書式は明治3年から明治4年にかけて整備された。

大沼郡桑原村に保存されている慶応4（1868）年、明治2（1869）年の「宗門改人別家別帳」と明治3（1870）年、4（1871）年の「戸籍」の筆頭者はすべて対応しており、世帯の構成員、筆頭者との続柄、年齢、異動、旦那寺にも矛盾はみられない。筆頭者数、軒数、戸数も一致している。そのため、「宗門改人別家別帳」から「戸籍」への移行は、少なくとも記録内容に関して混乱なく実施されたと推測できる。

幕末・明治初期に作成された人口史料の筆頭者は、出稼ぎで村外に転出した者と絶家を除き、昭和27（1952）年、平成2（1990）年の世帯主の祖先と対応している[6]。幕末期に系譜を遡ることのできる23世帯は、桑原財産区の構成員として、共有林で伐採された木材販売などの共有財産処分にもなう利潤の分配を受ける権利を保有する。昭和27年以降に増加した世帯は、寄留者と呼ばれており、大東亜戦争後の南洋諸島からの引き揚げ者、小学校教員、桐工芸家、および別家である。平成2年の寄留者5世帯は、村の共有財産処分にもなう利潤の分配には与らない。桑原村での現地調査の結果、幕末維新期の四つの史料とも、本籍人口を住居と家計を共にする世帯単位に記録したと判断される。

明治3年3月から6月にかけて、若松縣に所属する各村の肝煎が作成した「戸籍」には、世帯ごとに構成員の名前、年齢、筆頭者との続き柄、異動、旦那寺、旦那寺の所在地、宗

教・宗派などが記録されている。史料によっては、田の面積、畑の面積、山林の面積、屋敷地の面積、屋敷地の地番、漆木の本数、牛馬数、農間余業、氏神などが詳細に記録されている史料もみられる（図1）。

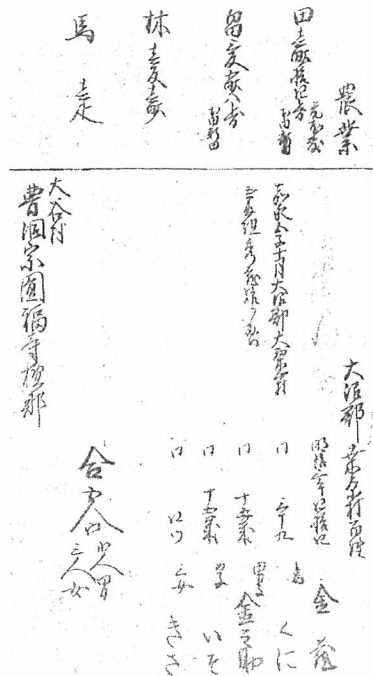


図1 明治三年「戸籍」の書式
「岩代国大沼郡桑原村戸籍 明治三年年」
(福島県歴史資料館架蔵、河越 卿家文書)

3. システム構築の意義

近年著しい展開をみせている歴史人口学では、「宗門改帳」の分析事例は急増している。しかし、「戸籍」を用いた研究は多くはない。その要因として、①史料整理に膨大な作業量が必要である、②人権問題などのために史料収集が至難である、③史料の性格が十分解明されていないといった点が指摘できる。

本研究で構築中の「幕末維新期人口史料」分析システムは、①に関して史料読解から人口学的指標の算出に至る研究過程の短縮を図るだけでなく、「戸籍」から人口統計を求める研究過程の再現性を保障するとともに、文字データとして「戸籍」の保存を図り、研究者間における史料と分析方法を共有する研究基盤の整備を目指している。

②についても、本システムに「戸籍」などの史料を蓄積する作業は、史料保存機関の協力により、今後も順調に進展すると思われる。

③に関して、「戸籍」の記録内容を理解するには、史料の作成年月日、作成者、作成方法を復原する書誌学的検討、関連法規の検討、「宗門改帳」など関連資料との比較が不可欠である。史料の性格を十分吟味せずに人口統計学の手法を「戸籍」に適用することは、絶対に避けるべきである。

4. 「幕末維新时期人口史料」データベースの概要

4. 1. 開発環境とシステムの構成

「幕末維新时期人口史料」データベースを含む「江戸時代における人口分析システム (DANJURO ver.4.0)」は、HP ProLiant ML150 G3 をサーバ機とデータベース機、Microsoft Windows 2003 R2 を OS、Oracle Database 10.2.0.1 を DBMS、Oracle Internet Application Server 10.1.3.2 を Web Server として構築・運用されている。

DANJURO ver.4.0 の URL は次に示される。
<http://kawaguchi.tezukayama-u.ac.jp>

DANJURO ver.4.0 は、「宗門改帳 (しゅうもんあらためちょう)」分析システム、「過去帳」分析システム、「幕末維新时期人口史料」分析システム、古文書文字の認識、研究費・研究成果・受賞歴、および関連サイトへのリンクから構成されている。

「宗門改帳」分析システムは、A)「宗門改帳」古文書画像データベース、B)「宗門改帳」分析プログラム、C)検索利用マニュアルから構成されている。A)には、陸奥国、武蔵国、摂津国の7ヵ村、約10万人、約2万3千世帯が蓄積されており、B)を用いて62項目の人口学的指標を求めることができる。

「過去帳」分析システムは、A)「過去帳」データベース、B)「過去帳」分析プログラム、C)検索利用マニュアルから構成されている。A)には武蔵国多摩郡などの12ヵ寺、約3万人分の被葬者が蓄積されており、B)を用いて51項目の死亡指標を利用者側コンピュータに表示できる。

古文書文字の認識ページでは、ニューラルネットワークを応用した古文書個別文字の認識実験の概要と陸奥国会津郡小松川村「宗門改人別家別帳」の古文書画像から採字した72

字種、14,122文字の2値画像を古文書個別文字認識の実験用データとして公開している。

現在構築中の「幕末維新时期人口史料」分析システムは、「幕末維新时期人口史料」データベース、「幕末維新时期人口史料」分析プログラム、および検索利用マニュアルから構成する計画である。本システムは開発中であるため、二重の認証画面を設け、システム開発者以外の利用を禁じている。

平成12年3月から平成20年11月15日までの約9年間におけるDANJUROのヒット件数は16,800件を超え、利用登録者数は30人に達している。

4. 2. 登録史料

明治3(1870)年から明治11(1878)年に作成された岩代国会津郡・大沼郡を含む旧若松縣に所属する延べ30ヵ村の「戸籍」をもとに、「幕末維新时期人口史料」データベースを試作した。本データベースには、表1に示した延べ4,100人、725世帯が登録されている。

表1 「幕末維新时期人口史料」データベースに登録されている史料

集落名	史料作成年月	登録人数	世帯数
岩代国会津郡伊予戸村	明治4年10月	80	14
岩代国会津郡寺山村	明治4年10月	25	5
岩代国会津郡小松川村	明治4年10月	107	18
岩代国会津郡岩下村	明治4年2月	38	17
岩代国会津郡藤生村	明治5年12月	278	52
岩代国会津郡中荒井村	明治7年1月	326	61
岩代国会津郡川島村	明治7年1月	279	61
岩代国会津郡関本村	明治7年1月	103	25
岩代国会津郡長野村	明治11年	714	93
岩代国大沼郡中在家村	明治4年10月	47	9
岩代国大沼郡上杉原村	明治3年6月	126	20
岩代国大沼郡上杉原村	明治4年11月	131	21
岩代国大沼郡中村	明治4年10月	17	3
岩代国大沼郡仁王村	明治3年6月	68	14
岩代国大沼郡仁王村	明治4年11月	78	16
岩代国大沼郡入谷地村	明治4年11月	50	9
岩代国大沼郡大岩村	明治4年11月	55	10
岩代国大沼郡小山村	明治3年6月	119	20
岩代国大沼郡小山村	明治4年11月	131	21
岩代国大沼郡小川窪村	明治4年11月	187	35
岩代国大沼郡松岸村	明治4年10月	348	60
岩代国大沼郡桑ノ原村	明治3年3月	149	25
岩代国大沼郡桑ノ原村	明治4年10月	151	25
岩代国大沼郡海老山村	明治3年6月	35	6
岩代国大沼郡海老山村	明治4年11月	37	6
岩代国大沼郡菅沼村	明治3年6月	21	4
岩代国大沼郡菅沼村	明治4年11月	22	4
岩代国大沼郡落合村	明治3年6月	81	15
岩代国大沼郡落合村	明治4年11月	106	20
岩代国大沼郡魚淵村	明治4年11月	191	36
合計		4100	725

4. 3. データ項目

「幕末維新时期人口史料」データベースは、個人情報テーブル、世帯情報テーブル、および史料書誌情報テーブルから構成されている。各テーブルのデータ項目を以下に示す。このうち、アンダーラインを付したデータ項目が数値データ、それ以外は文字データである。

ア) 個人情報テーブル…集落名(国郡村)、緯度、経度、西暦、世帯番号、個人番号、名前(ローマ字)、名前(漢字)、性別、年齢、生年月日(和暦)、生年月日(西暦)、筆頭者との続き柄、配偶関係、宗教・宗派、旦那寺、旦那寺の所在地、異動事項、異動の発生した年月日(和暦)、異動の発生した年月日(西暦)、異動内容。

イ) 世帯情報テーブル…集落名(国郡村)、緯度、経度、西暦、世帯番号、筆頭者名(ローマ字)、筆頭者名(漢字)、家族人数(男性)、家族人数(女性)、下男人数、下女人数、回家人数(男性)、回家人数(女性)、世帯規模、世帯構造、家族外同居者、同居世代数、牛数、馬数、田の面積、田の石高、畑の面積、畑の石高、屋敷地の面積、屋敷地の石高、山林の面積、山林の石高、持高、農間余業、氏神。

ウ) 史料書誌情報テーブル…集落名(国郡村)、西暦、史料作成年月日(西暦)、史料作成年月日(和暦)、史料名、史料作成者、史料所有者。

4. 4. ユーザ・インターフェース

「幕末維新时期人口史料」データベースのユーザ・インターフェースは、個人情報、世帯情報、史料書誌情報の各テーブルに対応する検索条件入力画面、検索結果のブラウジング画面、検索結果の詳細情報表示画面、検索結果のダウンロード項目選択画面、およびダウンロードの実行画面から構成されている。

「幕末維新时期人口史料」分析システム・ホームから「幕末維新时期人口史料」データベースを選択すると、「幕末維新时期人口史料」データベース・ホームが開く(図2, 3)。この画面から「個人情報の検索」、「世帯情報の検索」、または「史料書誌情報の検索」を選択する。

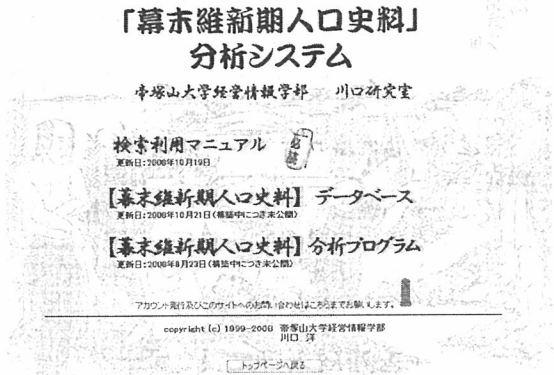


図2 「幕末維新时期人口史料」分析システム・ホーム

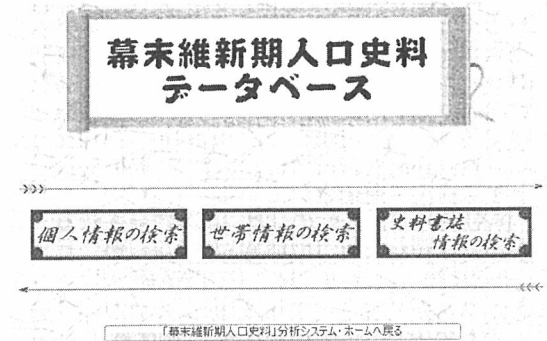


図3 「幕末維新时期人口史料」データベース・ホーム

「幕末維新时期人口史料」データベース・ホームの「個人情報の検索」をクリックすると「個人情報の検索」の検索条件の入力画面が表示される(図4)。利用者は、最初に「国郡名」や「集落名」をプルダウンから選択する。「西暦」には、「国郡名」や「集落名」を選択すると対応する年代の候補がプルダウンに表示される。「宗教・宗派⁽¹⁾」、「異動事項⁽²⁾」はプルダウンから、「性別」と「配偶関係」はラジオ・スイッチから選択する。「世帯番号」、「個人番号」、「年齢」については数字で検索条件を入力する。図4では、1871年の岩代国大沼郡において80歳以上の高齢者を検索するために、検索条件として「国郡名」に「岩代国大沼郡」、「西暦」に「1871」、年齢に「80～」を指定している。

個人情報の検索		世帯情報の検索	史料書誌情報の検索
検索画面		検索画面	
検索条件入力フィールドに検索条件を入力して、検索ボタンをクリックして下さい			
データ項目	検索条件入力フィールド		
国郡名	岩代国大沼郡		
集落名(村)	指定しない		
西暦	1871 年		
世帯番号			
個人番号			
名前(漢字)			
性別	男 女 不明 指定しない		
年齢	60 歳～ 歳		
加齢者との続き別			
配偶関係	有配偶 寡・死別 未婚 不明 指定しない		
宗姓・家系	指定しない		
旦那中の所在地			
旦那名			
真物事項	指定しない 指定しない 指定しない AND OR		
真物内容			

[検索] [クリア]

図4 「個人情報の検索」の検索条件入力画面

「幕末維新期人口史料」データベース・ホームから「世帯情報の検索」を選択すると「世帯情報の検索」の検索条件の入力画面が表示される(図5)。「国郡名」や「集落名」をプルダウンから選択すると「西暦」のプルダウンに対応する候補が表示される。「世帯構造⁽³⁾」はプルダウンから、「家族外同居者」はラジオ・スイッチからそれぞれ検索条件を選択する。これ以外の項目には数字で検索条件を入力する。図5では、1870年の岩代国大沼郡における多核家族を検索するために、検索条件として「国郡名」に「岩代国大沼郡」、「西暦」に「1870」、「世帯構造」に「5 Multiple family households」を指定している。

「個人情報の検索」の検索条件入力画面(図4)下部の「検索」ボタンをクリックすると検索が始まり、検索結果のブラウジング画面が表示される(図6)。この画面には、検索対象キーワード、ヒット件数、および検索結果の主要データ項目が1頁につき20件表示される。図6では、「国郡名」に「岩代国大沼郡」、「西暦」に「1871」、年齢に「80～」を検索条件とした検索の結果、7件のデータがヒットしている。

ブラウジング画面左端にある「ID」をクリックすると「個人情報の詳細表示」画面が表示される。図7では、「個人情報の詳細表示」画面下部のボタンをクリックして、個人

が所属する世帯に関する情報が記録されている「世帯情報」、および「集落名」と「西暦」に対応する「史料書誌情報」を表示している。「個人情報」と「世帯情報」の詳細表示画面には、対応する他のテーブルを表示するためのボタンを付した。そのため、「個人情報」、「世帯情報」、「史料書誌情報」を同一画面上で対照することができる。

データ項目	検索条件入力フィールド	
国郡名	岩代国大沼郡	
集落名(村)	指定しない	
西暦	1870 年	
世帯番号		
筆頭者名(漢字)		
家族人数(男性)	人～	人
家族人数(女性)	人～	人
下男人数	人～	人
下女人数	人～	人
同居人数(男性)	人～	人
同居人数(女性)	人～	人
世帯規模	人～	人
世帯構造	5 Multiple family households	
家族外同居者	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 指定しない	
同居世代数	4	世代～ 世代
牛数	疋～	疋
馬数	疋～	疋
田の石高	石～	石
畑の石高	石～	石
持高	石～	石
農閑余実		

図5 「世帯情報の検索」の検索条件入力画面

個人情報の検索		世帯情報の検索	史料書誌情報の検索											
検索画面		検索画面												
個人情報の検索結果														
検索対象キーワード														
国郡名「岩代国大沼郡」														
西暦「1871」年														
年齢「60」歳～「99」歳														
7 件データベースに存在します。														
※各レコードのIDをクリックすると、詳細内容をご覧いただけます。														
※「download」項目の選択をクリックすると、downloadするデータ項目の選択画面へ移ります。														
1/1ページ 1～7を表示														
ID	集落名	西暦	世帯番号	個人番号	名前(漢字)	性別	年齢	筆頭者との続き別	配偶関係	宗姓・家系	旦那中の所在地	旦那名	真物事項	真物内容
224	岩代国大沼郡小山村	1871	13000	1042	丹五郎	男性	81	寡	有配偶	有紀高	津京	津京	死亡	明治五年正月十三日死亡
225	岩代国大沼郡小山村	1871	13000	38	子太	女性	51	寡	有配偶	有紀高	津京	津京	死亡	
226	岩代国大沼郡小山村	1871	14000	1045	利作	男性	65	父	寡・死別	津京	津京	死亡	明治六年二月二十七日死亡	
227	岩代国大沼郡松原村	1871	2000	4	いね	女性	80	従母	寡・死別	津京	松原村			
228	岩代国大沼郡松原村	1871	24000	62	ゆき	女性	62	従母	寡・死別	津京	松原村			
229	岩代国大沼郡上野原村	1871	10000	25	はつ	女性	61	従母	有配偶	有紀高	津京	津京	死亡	明治五年六月六日死亡
230	岩代国大沼郡上野原村	1871	30000	57	まゆ	女性	87	養母	寡・死別	津京	長崎村	死亡		

[download]項目の選択

[検索画面へ戻る] [幕末維新期人口史料ID検索画面へ戻る]

図6 「個人情報の検索結果」ブラウジング画面



図 7 「個人情報の詳細表示」画面と世帯情報、史料書誌情報との対照

図 6 のブラウジング画面下部にある「download 項目の選択」ボタンをクリックすると、ダウンロードする項目とソートキーを指定する画面が表示される (図 8)。



図 8 「download 項目の選択」画面

図 8 の「download 項目の選択」画面下部にある「download の実行画面へ」というボタンをクリックすると、「download の実行」画面が表示される。「download の実行」画面下部にある「download」をクリックすると、検索結果を CSV ファイルとして利用者側のコンピュータにダウンロードすることができる。

5. 検索例 -遠隔地から奥会津地方への人口移動-

奥会津地方における自治体史は、婚姻にともなう人口移動が狭い範囲で完結していたと述べ、山間僻村の閉鎖性を強調している[7], [8], [9], [10], [11]。しかし、「幕末維新期人口史料」データベースから明治時代初期

の配偶者の出身地を検索すると、岩代国会津・大沼両郡内にとどまらず、陸中国、陸前国、磐城国、下野国、上野国、相模国、信濃国、飛騨国、越後国、越前国、山城国にまでおよんでいた。東日本全域にわたる入婚圏のうち、最も多くの配偶者を奥会津地方に送り出していたのは越後国蒲原郡であった。

越後国には、蒲原郡津川を中心とした会津藩領、魚沼郡小出を中心とした会津藩預地が分布している。しかし、奥会津地方に配偶者を送り出していた集落の支配関係は、会津藩や会津藩預地に限られてはいない。新発田藩、長岡藩、松村藩、与板藩、高崎藩など多岐にわたっている。そのため、特定の藩が南山御蔵入領への婚姻移動を仲介した可能性は低いと推測される。

遠隔地出身の配偶者を受け入れていた家の宗教・宗派も、浄土真宗、時宗、天台宗、真言宗、曹洞宗、禅宗、神道など多岐にわたっている。そのため、北陸地方から北関東への移民を募集して引き入れた事例のように、特定宗派の僧侶が遠方婚を仲介した可能性も低いとみられる。

本データベースに登録されている 23 カ村のうち 9 カ村で遠隔地出身の配偶者を確認することができる。異動に関して詳細な書き込みのある会津郡藤生村では、54 組の夫婦の 26% に相当する 14 組、中荒井村では 65 組の夫婦の 17% に当たる 11 組、川島村では 62 組の夫婦のうち 13% に当たる 8 組、関本村では 23 組の夫婦のうち 9% に当たる 2 組、長野村では 131 組の夫婦のうち 16% に相当する 21 組、小松川村では 17 組の夫婦のうち 6% に当たる 1 組、大沼郡仁王村では 21 組の夫婦のうち 19% に当たる 4 組、小山村では 38 組の夫婦のうち 3% に当たる 1 組、宮崎村では 56 組の夫婦のうち 2% に相当する 1 組が遠方婚であった。すなわち、遠隔地出身の配偶者を迎えた家は、例外的な事例ではなく、幕末維新期の奥会津地方における多くの村々でみられた。

家の持高も 0.1 石から 7.5 石まで分散しており、さまざまな階層の家が遠隔地出身の配偶者を受け入れていた。

遠隔地出身の配偶者の年齢は、19 歳から 73 歳にわたっており、20 代から 60 代までほぼ均等に分布している。そのため、少なくとも 1830 年代から 1870 年代までの期間、奥会津地方の村々では、遠隔地出身の配偶者を受け入れていたと推測できる。

遠隔地出身の配偶者は、過半数が女性であり、長女、長男よりも出生順位の低い者が多かった。

他方、奥会津地方の総人口は、18 世紀初頭から減少を続け、1840 年代を最低として回復・成長を始めた[12]。持続的人口増加開始

期に観察される越後国蒲原郡を中心とする遠隔地から奥会津地方への一方的な人口移動は、1世紀以上にわたって人口減少を容認していた民衆が、1830年代を境に人口増加への道程を自ら選択したことを端的に示している。すなわち、1830・40年代の奥会津地方において、労働需要、とくに女性の労働需要の増大という地域経済の構造的変化が生じた可能性を作業仮説として再度指摘しておきたい。奥会津地方における地域経済活性化の背景には、大麻の栽培から麻織物の織り立てに至る、女性労働力を必要とする麻織物業の興隆を視野におさめる必要がある[13]。

6. おわりに

本研究では、明治初期に岩代国会津郡・大沼郡を含む若松縣で村ごとに作成された「戸籍」を入力史料として、「幕末維新时期人口史料」データベースを試作した。次に、本データベースを用いて、遠隔地から奥会津地方への婚姻移動を復元した。幕末維新时期における山間僻村への遠距離婚姻移動は、本データベース構築を契機として新たに再発見された先行研究のない人口現象とみられる。今後、持続的人口増加開始期における地域経済の構造的変化の中に遠距離婚姻移動を位置づけ、理解を深める必要がある。

本稿は、「幕末維新时期人口史料」分析システム構築に向けての中間報告であるため、今後のシステム開発計画を以下に列挙する。

第一に、本データベースから人口学的指標を算出する「幕末維新时期人口史料」分析プログラムを開発したい。すなわち、総人口、男女別人口、性比、五歳階級別人口、年齢階層別人口、年齢階層別性比、年齢構造係数、年齢構造指数、配偶関係別人口、有配偶率、未婚率、宗教・宗派別人口、宗教・宗派別人口の構成比、平均世帯規模、世帯規模別世帯数、世帯規模別世帯数の構成比、同居世代数別世帯数、同居世代数別世帯数の構成比、家族形態別世帯数、家族形態別世帯数の構成比など25項目の指標を求め、利用者側コンピュータに表示させるプログラムを開発したい。

こういった静態人口の構造を表す指標に加えて、単年度の広域にわたる人口を登録した史料の特色を活用して、出生力を過去にさかのぼって逆進的に推計する同居児法などのプログラムを開発することにより、人口再生産構造の地域特性を抽出したい。

第二に、人口再生産構造と親族組織との関係を解明するため、両者を架橋する分析方法を開発する必要がある。すなわち、本データベースにもとづいて個人の親族関係やライフ・イベントを家系図に表わす親族関係分析プログラムを開発したい[14]。

第三に、明治初期の奥会津地方における「戸籍」に加えて、明治3(1870)年12月に作成された武蔵国多摩郡日野宿組合村35ヵ村における10,211人、2,121世帯の史料を追加登録することにより、データベースの規模拡大を図りたい[15]。

謝辞

本研究には、2006～2008年度・科学研究費補助金・基盤研究C(課題番号:185000198、研究課題:近代移行期における親族関係分析システムの構築、研究代表者:川口洋)、2008年度・日本私学振興共済事業団・学術研究振興資金(研究課題:「幕末維新时期人口史料」分析システムの構築、研究代表者:川口洋)、および2008年度・帝塚山学園学術・教育研究助成金・特別研究費の補助を受けた。

注

- (1)「宗教・宗派」のプルダウンには、真言宗、天台宗、浄土宗、真宗・浄土真宗、一向宗、高田宗、日蓮宗、法華宗、臨済宗、曹洞宗、時宗、唯一神道、本山派修験、当山派修験が登録されている。
- (2)「異動事項」のプルダウンには、出生、養子、養女、奉公、移動、別家、行方不明、結婚、不縁、離別、連れ子、養父、養母、出産、死亡、不明が登録されている。「異動事項」には、論理積 (and) と論理和 (or) のスイッチをつけ、3項目まで検索条件を指定できる。
- (3)「世帯構造」のプルダウンには、ピーター・ラスレットの分類にもとづき、1.Solitaires, 11.Widowed, 12.Single or of unknown marital status, 2.No family, 21.Coresident sibling, 22.Coresident relations of other kinds, 23.Persons not evidently related, 3.Simple family households, 31.Married couples alone, 32.Married couples with child(ren), 33.Widowers with child(ren), 34.Widows with child(ren), 4.Extended family households, 41.Extended upwards, 42.Extended downwards, 43.Extended laterally, 44.Combinations of 41-43, 5.Multiple family households, 51.Secondary

units up, 52.Secondary units down, 53.Secondary units lateral, 54.Frereches, 55.Other multiple family households が登録されている[16].

参考文献

- [1] 川口 洋：「江戸時代における人口分析システム（DANJURO ver.2.0）」の構築・運用・利用，帝塚山学術論集，No.9，pp.1-27, 2002.
- [2] 川口 洋・上原邦彦・日置慎治：「過去帳」分析システムを用いた史料吟味，情報処理学会：人文科学とコンピュータシンポジウム論文集，Vol.2006，No.17，pp.101-108, 2006.
- [3] 川口 洋『平成 15～17 年度 科学研究費補助金（基盤研究 C）研究成果報告書 寺院「過去帳」分析システムの構築』2006，帝塚山大学経営情報学部川口研究室，190 頁.
- [4] 川口 洋・上原邦彦・日置慎治：「過去帳」分析システムの構築と活用 — 大都市近郊農村における民衆の死亡地 —，情報処理学会研究報告，Vol.2007，No.95，pp.49-56, 2007.
- [5] 川口 洋・上原邦彦・日置慎治：武蔵国多摩郡の寺院で供養されている被葬者の出身地 — 「過去帳」分析システムを用いた史料検討 —，情報処理学会：人文科学とコンピュータシンポジウム論文集，Vol.2007，No.15，pp.1-8, 2007.
- [6] 川口 洋：南山御蔵入領における村落人口の特色 — 明治 4（1871）年 —，東京家政学院筑波短期大学紀要，Vol.2，Part 1，pp.99-119, 1992.
- [7] 檜枝岐『檜枝岐村史』，p.365, 1970.
- [8] 南郷村教育委員会『奥会津南郷の民俗』，p.244, 1971.
- [9] 石川純一郎編『田島町史 第 4 巻 民俗編』，p.168-178, 1977.
- [10] 下郷町史編纂委員会『下郷町史 第 5 巻 民俗編』歴史春秋社，p.404, 1982.
- [11] 只見町文化財石伏集落調査委員会『奥会津石伏の歴史と民俗』歴史春秋社，p.406, 1984.
- [12] 川口 洋：17～19 世紀の会津・南山御蔵入領における人口変動と出生制限，歴史地理学，Vol.40，No.5，pp.5-25, 1998.
- [13] 川口 洋：人口と社会・経済からみた近代移行期における地域変化（石原・金坂・南出・武藤編著『アジアの歴史地理 1 領域と移動』朝倉書店），pp.79-90, 2007.
- [14] 杉藤重信・川口 洋：親族関係分析システム「アライアンス」による「宗門改帳」分析の試み，情報処理学会：人文科学とコンピュータシンポジウム論文集，Vol.2005，No.21，pp.159-166, 2005.
- [15] 黒須里美『平成 14～16 年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)2 研究成果報告書 近代移行期の家族と地域性：庶民のライフコースと社会的ネットワーク』2006，麗澤大学外国語学部黒須研究室，175 頁.
- [16] ピーター・ラスレット著，酒田利夫・奥田伸子訳『ヨーロッパの伝統的家族と世帯』リポート，pp.41-51, 1992.